

野 獣 は 放 た れ た。

ジャック・ニコルソン  
ミシェル・ファイファー

マイク・ニコルズ監督作品  
NICHOLSON  
PFEIFFER

# ウルフ

A Mike Nichols Film  
WOLF

コロンビア映画提供

ダグラス・ウィック・プロダクション マイク・ニコルズ・フィルム ジャック・ニコルソン ミシェル・ファイファー "WOLF"

ジェームズ・スベイダー ケイト・ネリガン リチャード・ジェンキンス クリストファー・ブラマー 編集:サム・オースティン 美術:ポー・ウェルチ

撮影:ジュゼッペ・ロッシンノ 特殊メイク:リック・ベイカー 製作総指揮:ニール・マックリス&ロバート・グリーンノット

脚本:ジム・ハリル&ウズリー・スリック 製作:ダグラス・ウィック 監督:マイク・ニコルズ

オリジナル・サウンド・トラック ソニー・レコード

コロンビア映画作品

コロンビア トライスター映画配給

CELEBRATED  
A COLLABORATIVE RELEASE



NICHOLSON  
PFEIFFER

A Mike Nichols Film

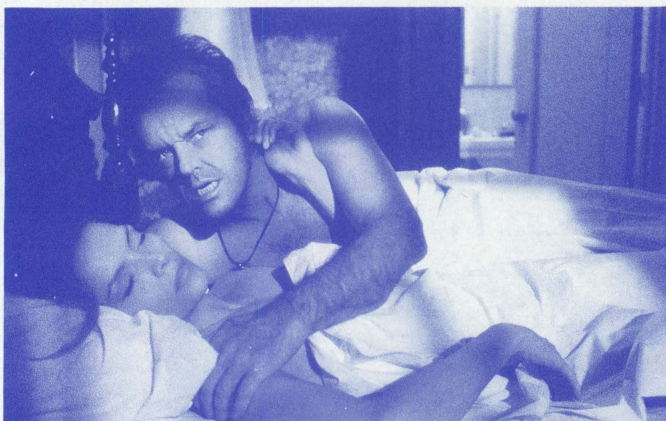
WOLF



「繊細な男の時代は終わり、狼男の時代がやってきた」ジャック・ニコルソン

— USAトゥデイ誌・3月8日 —

「あの狼は私に何かを与えたの  
だろうか。狼の魂の一部が何か  
が私の血の中に混ざり込んでし  
まったのだろうか。一体何が起  
こったのか私にはさっぱりわか  
らない。ただ、私はもう以前の  
私ではない。今の私は生きている  
。生気に溢れているのである」  
—ウィル・ランダル



マンハッタンで本の編集の仕  
事をしているウィル・ランダル  
は会社を首になるかもしれない  
という恐怖にかられた日々を送  
っている。雪の降りしきる日曜の夜、ウィル  
はぼんやりとした頭で人里離れた田舎道に車を  
走らせている。

突然、車の前に黒っぽい影がぬっと現れ、ウ  
ィルは慌ててブレーキを踏む。車は大きく揺  
れ、横滑りしながら道の脇に停止する。彼は  
そっと車から降り雪の上の一筋の血の跡を辿

っていき、そこで一匹の大きな狼を見つける。  
最初はそれが何者であるかはっきりとわから  
なかつたが、獣は間違いなく生き物であった。  
暗闇の中へ逃げようと立ち上がった狼は、逃  
げ際にウィルの手首に噛みつく。

この瞬間からウィルの人生は変わり始め  
る。異変は当初、わずかなものに過ぎなかつ

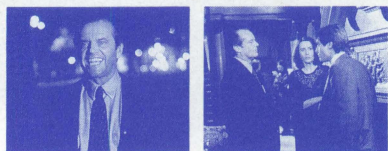
た。しかし、次第に彼の五感  
は研ぎ澄まされていき、まわりの  
人間への洞察力も鋭くなってい  
く。日に日に彼は神秘的な狼の  
野性の魂に引き込まれていく。  
ウィル・ランダルにとって、仕  
事も結婚生活も自分の人生の何  
もかもがもう元には戻れないよ  
うになっていく……。

監督のマイク・ニコルズは、  
ジャック・ニコルソンを待って  
いた。メイフラワー・ホテルか  
ら道を隔てた、セントラル・パ  
ークの南西の角にある湿った地  
下道への入口に置かれたデレクターズ・チェ  
アアに腰を降ろし、彼は主演俳優を待ち受け  
ている。しかし、ここはニューヨークではな  
く、実際はカルバー・シティーにあるソニー  
・ピクチャーズの撮影スタジオである。このセ  
ットで、今まさに不気味な出来事が起ころう  
としていることだけは確かである。

恐れれば、恐いほど、セクシー。  
ジャック・ニコルソンは、もはや女性にとって危険な存在になった。

「ウルフ」は、4年前の小説家ジム・ハリソン  
とプロデューサーのダグラス・ウィックの飛  
行機の機内での会話から生まれた。「僕の住ん  
でいる場所は、人里離れた所なんだ」とハリ  
ソンの低い声が響いた。「野性の狼だつて住ん  
でいる。ある晩、狼が車にひかれた夢を見た  
んだ。狼を抱き上げると、その狼が僕の口か  
ら体の中に入り込んだんだよ。」

ハリソンに、精神科医のところに行くよう  
薦めるかわりに、ウィックはこの話はおもし



ろい脚本になると提案した。そこで、ハリソ  
ンは2年近くかけてコンセプトを練り、書き  
上げた脚本をバリーでニコルソンに見せた。

ニコルズを監督に選んだのもニコルソンだ  
つた。「何かひとつ上げるとすれば、この作品

は男の性を描いていると言える。昼間は英国  
紳士だが夜は野獣になるところさ。  
僕はこのコンセプトとすでに半分狼になつて  
いるようなジャックが狼男になる主演を演じ  
ることに興味を持ったんだ」とニコルズは語  
っている。「イエーツの詩の中の言葉で僕の心  
を毎週のように打つのが、"最善のものは信念  
に欠けているなか、最悪のものは熱意に満ち  
溢れている"だ。これは今世紀を語る言葉だ  
よ」とニコルズは語る。

特殊メイク、特殊撮影、優れた映画の技(ワザ)はそれだけで感動できる。

「ウルフ」の成功は、スリラー、ロマンス、  
ホラー、そしてコメディが混ざった映画に合  
ったトーンとスタイルをニコルズが見つけら  
れるかどうかにかかっていた。

「撮影中に、「これは何の映画?」と聞いて、  
「ジャック・ニコルソンが狼になる映画」と誰  
かが言うのとみんな笑うの」というファイフ

一の言葉は「ウルフ」の成功を約束してい  
るかのようだ。

「ウルフ」は、脚本製作だけでも200万から  
300万ドルかかり、総製作費が2500万ドルを  
越える高価な作品となった。撮影も夜間が多  
く、4~5時間かかるメイクもニコルソンにと  
って決して楽なものではなかった。



近日ロードショー!!

★特別ご鑑賞券発売中! ●一般券1,500円 ●学生券1,300円 ●ペア券(お2人で劇場窓口のみ)2,800円

有楽町マリオン9F

日劇プラザ

03(3574)1131

渋谷道玄坂109前

渋谷シネタワー

03(5489)4210